

## 三菱ケミカルホールディングス社長 小林 喜光 2008年新年挨拶(要旨)

株式会社三菱ケミカルホールディングス

(本挨拶に先立ち、三菱化学鹿島事業所での火災事故でなくなられた4名の方に黙祷を捧げた。)

### 【はじめに】

昨年12月21日に鹿島事業所において火災が発生し、協力会社4名の方を喪うという、あってはならない事故が発生しました。亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、ご遺族の方々には心からのお悔やみを申し上げます。また、近隣にお住まいの皆様、お取引先の皆様、多くの皆様にご心配とご迷惑をおかけしていること重ねてお詫び申し上げます。

### 【鹿島事業所火災事故について - 事故に対する猛省と、決意新たに徹底した安全意識を】

鹿島事業所は、過去の事故に鑑み、徹底した安全対策を実施してきたにもかかわらず、今回4名もの方が犠牲になるという事故を引き起こしてしまいました。原因は現在調査中ですが、深く反省しなければなりません。

今後二度と事故を起こさないためにも、我々一人ひとりが再度「安全第一」を胸に刻み、「安全第一」の行動を日々実践することが必要です。言葉だけでなく、実践として「安全なきところに生産なし」ということをあらためて深く認識すべきです。再度全ての工程において再確認し、無事故無災害の決意を新たにしてください。

また、製品の融通など他社のご協力も得ながら、お客様第一との考えであらゆる方策を考え、最大限お客様の要請にお応えするよう努力していただきたい。

### 【グループの社会的信頼回復に向け、誠実かつ真摯に対応】

田辺三菱製薬は、昨年10月1日に国際創薬企業を目指し新たなスタートをきったわけですが、残念ながら薬害C型肝炎問題という克服すべき大きな課題を抱えております。我々としては、今後、行政、司法当局とともにこの問題の早期解決に向け、誠実かつ真摯に対応していかねばなりません。

また、三菱樹脂においては、塩ビ管の価格加増の容疑で公正取引委員会の強制調査が今も続いております。同社におきましては、現在、第三者調査委員会を設置し、再度の見直し作業等、コンプライアンスの一層の徹底に取り組んでいただいておりますが、4月の統合される新社には、コンプライアンスの徹底に努め、社会からの信頼回復に向け全力で取り組んでいただき、グループの機能材料事業の中核会社として成長、発展に努めていただきたいと思います。

### 【“崖っぷちに立っている”という危機感を】

三菱ケミカルホールディングスグループは極めて大きな課題を抱えており、まさに「グループ存亡の危機」、崖っぷちに立たされていると思っております。皆さんにもこの強い危機感を共有して頂き、グループ一丸となってこの危機を乗り切っていくようではありませんか。襟を正し決意を新たに、連鎖させない、二度と同じ過ちを繰り返さないということを、年頭にあたり皆さんに強くお願いを申し上げます。

以上

[本件に対する問い合わせ]

株式会社三菱ケミカルホールディングス  
広報・IR室

TEL: 03 - 6414 - 4870